

児玉源太郎（陸軍大将）の墓

嘉永5年（1852年）徳山藩士児玉半九郎の長男として生まれ幼名を百合若、のちに源太郎と改めた。

明治元年献功隊に入り半隊司令士を命じられ、戊辰の役に出征、以後陸軍に出仕し明治4年少尉に任官、7年の佐賀の乱、9年の熊本神風連の乱（当時少佐）、10年の西南の役に出征し功があつた。25年陸軍次官、軍務局長を歴任し、日清戦争の功により男爵を授けられた。29年中将に進級、31年台湾総督に任ぜられ、33年伊藤内閣の陸軍大臣となり、そのまま桂内閣に留任、西園寺内閣では内務大臣および文部大臣をかねた。

37年大将に進級、明治37・8年の日露戦役には満州軍総参謀長として出征し、作戦の周到さと明敏なことで海外に名をあげ、日露戦役の大作戦をえがき、演出したのは児玉大将だといわれ、戦功により子爵、功一級金鷄勲章を授けられた。

明治39年7月23日東京において55歳で急逝した。隠居山の興元寺墓地にある大将の墓は、遺髪が埋葬されている。



児玉大将の
遺髪の塔

地藏様

清水町4に、地藏様・お大師様・観音様を祭ったお堂がある。お大師様は19番橋池山鶴林寺と彫っており、地藏様は文政4年（1821年）に安置されたもので、子供の安全を守る地藏様といわれている。

昔から毎年7月24日には、多数のとうろうに、子供たちが紙を張り、それぞれ自分の好きな字や絵を書いて立て、にぎやかに子供祭りが行われている。



19番橋池山鶴林寺・地藏様